

地域密着型特別養護老人ホームわかば
令和 7 年度 第 2 回 運営推進会議

施設長	作成

開催日時		令和 7 年 6 月 25 日(水)		午前 1 1 時～午前 1 1 時 4 0 分	
開催場所		特別養護老人ホームわかば 1 階 会議・研修室			
サービス区分		地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護			
出席者の状況	委員（職種）	委員数（ 10 ） 名／出席（ 8 ） 名			
		（利用者代表）		（家族代表）	
		（地域代表）		（市町村職員）	
		（第三者委員）		（知見を有する者）	
		（中央地域包括センター職員）			
	職員（役職）	（特養わかばイースト施設長）			
		（特養わかば生活相談員）			
		（特養わかば施設長）			
報告事項		出席者紹介 ● 活動状況報告 ● サービスの質の向上にかかる事項 ● その他、意見交換			

次第

出席者：別添資料（スライド⑭）に構成メンバーを記載。

第 2 回の開催にあたり、委員の地域代表者、知見を有する者が所用による欠席連絡を頂いた報告が行われた。

● 地域密着型特別養護老人ホームわかばの活動状況報告

1. 活動状況報告（スライド③～⑤）

令和 7 年 4 月～令和 7 年 5 月度期間における稼働件数推移について報告。

● 男女別稼働件数推移

期間として 4 月は先月からの入院者の施設退院が 4 月 2 日となり入院空床 1 日、5 月は満床稼働。

● ユニット別稼働件数推移

● 要介護度別利用者数推移

4 月・5 月対比においては、要介護 3 認定者が 4 ⇒ 3 名、要介護 5 認定者が 9 ⇒ 1 0 名と変動。

2. ユニット別平均要介護度、平均年齢（スライド⑥）

施設全体平均要介護度は 4.2（女性：4.3 男性：4.0）

年代構成は 6 0 歳代× 1 人

8 0 歳代× 8 人

90歳代×20人

- サービスの質の向上にかかる事項

3. 人員体制（スライド⑦）

介護職員に占める介護福祉士の割合（13名中11名＝84.6％）。

前回報告の実務者研修修了者2名は介護福祉士資格取得、実務者研修修了者は0名。

4. 事業所の取組み（スライド⑧）

- 嘱託医の往診 2回／月（隔週(第1・3)月曜日)
- 理美容サービス 1回／月（不定期で追加日程を設けている）。
- セブンミール 2回／月（第2・第4木曜日）開催。
- わかば栄養サポートチーム 毎月1回開催。
- 行事等

各会議の開催は配布資料の通り。

今期も3ヶ月ごとの全職員面談を計画的に実施するとともに、中途採用職員は毎月の面談を位置づけ、入職前のイメージと実働のミスマッチを確認。

5. 職員研修状況（スライド⑨）

年次研修実施報告として配布報告資料の通り。

※なお、研修に参加できない職員は全員レジメに沿ったレポート提出を義務付ける。

6. 苦情、事故、ヒヤリハットについて（スライド⑩～⑫）

- ヒヤリハット報告
配布資料の通り。期間計として報告なし。
- 事故報告
配布資料の通り。期間の計として12件。
- 事故分類
事案における重症者はないものの、擦過傷・裂傷の処置が3件。居室内やトイレなど職員の目が届きにくいところでの発生。その日その時々のお客様の状態に即した対応が求められる。

- 参加者からの意見・ご提案等について、

（知見を有する者）

（第三者委員）

- 事故報告の件数だが、昨年度の同時期と比べてどんな感じか。
__昨年同期間における報告としては13件でありマイナス1件となるが、ヒヤリハット報告が昨年同月10件に対し期間として0件となっているところが検討していくところ。また、発生分類として外傷が69％、転倒・転落が31％であり、分類の比較では逆転している。

(地域代表)

(中央地域包括支援センター)

- カフェてらすわかば、地域包括支援センターだよりの発行案内。

(基幹包括センター)

- ヒヤリハット報告が0件なのは気になるところ。気づきを多くし、対応を講じることで事故報告の減につながればよい。
- 本市のオレンジカフェ、ミズノ体操教室、市民公開講座の開催案内。

次回の開催予定月は偶数月の8月度の開催として調整。